

**第499回 5月24日開催
出席委員（50音順・敬称略）**

荒巻 裕	伊藤 芳明
大村 英昭	木下 明美
倉光 弘己	櫻井 美幸
森 輝彦	
黒田 勇(書面参加)	

◆ テレビ番組

4月29日放送の「VOICE」特番2本

**『VOICE<闇の正体>スペシャル 嗚呼!大阪市 底なしの役人天国』
4月29日（金）午後4時～4時50分放送**

**『VOICE緊急特番 消えたレール～JR快速「転覆」の真相～』
4月29日（金）午後4時55分～5時50分放送**

毎日放送の第499回番組審議会は5月24日大阪市北区の本社で開かれ、4月29日に放送された「VOICE」特番2本を審議した。労働組合のヤミ専従の実態などを調査報道で明らかにし、『VOICE<闇の正体>スペシャル 嗚呼!大阪市 底なしの役人天国』、そしてJR福知山線事故の問題点などを特集した『VOICE緊急特番 消えたレール～JR快速「転覆」の真相～』。

委員の主な意見

*テレビの調査報道に脱帽、敬意を表したい。匿名性と実名性のはざまが、新聞と違ってテレビはうまく出る。匿名でしゃべっているながら、ほとんど実名と同じような効果があがるところが、電波メディアの調査報道の武器だ。

*ニュースの内容がMBSのホームページに文字情報として流されているが、番組を見逃しても内容がわかる。ニュースと連動して見事なホームページを展開していると思う。

*迫力、緊迫感が全編にあり、報道の力を存分に見せてもらった。大阪市の問題は、毎日放送「VOICE」が全国的にもっとも先進的に取材、報道したが、特番でも映像の力をいかし、映像メディアの調査報道のやり方を確立した。

*「VOICE」は、時々こういう強烈なものをやりながら、普段はむしろほんわ

かしたような話とか、隠れた美談を発掘する。そういう日常的ないい風を送りながら、時々、バーンと怒るという恐ろしさを持った番組になってもらえるといい。

*映像のもつ迫力、説得力がすごい。「消えたレール」は、オムニバス形式にして明確にコンセプトを分けたのはよかった。

*テレビ報道は何をどれだけできるのか、どうすれば視聴者の信頼を得ることができるのか。ということを実証した2本の番組だ。こういう追跡取材を積み重ねていかないと、メディアへの信頼は生まれない。「面白くて、ためになるMBS」であり続けてほしい。

*日頃から「VOICE」という報道番組で、きちっと地域の問題を扱っている、その積み重ねが今回の大阪市の問題、あるいはJRの脱線事故の問題で、非常な力を発揮した。この二つは、根底に共通する構造的な問題を抱えているように思われ、そこをさらに検証してほしい。

*ジャーナリズムの衰退、とりわけテレビ・ジャーナリズムの衰退が言われて久しいが、ドキュメンタリーで実績を持つMBSが、日常的なテレビ・ジャーナリズムでも着実な活動を積み上げていることが改めて表現された番組。緊急に社会の動きに対応できる、そして柔軟に編成できるという点でもMBSの力量を示している。